

〒662-0088 兵庫県西宮市苦楽園4番町7-1

TEL.0798-70-0656(ナレオルゴール) FAX.0798-72-0110

http://www.orgel-horie.or.jp/ Email info@orgel-horie.or.jp

ロシア最後の皇帝ニコライ二世が愛したオルゴール

当館のコレクションの中にニコライ二世と名付けられたスイスの Baker and Troll 社 1878年製のシリンダーオルゴールがあります。ムーブメントは装飾を凝らした黒檀のケースに納められ、更に3枚のセーブル焼きの磁器で飾れた工芸品となっています。

このオルゴールは皇帝アレキサンドル三世が長男のアレキサンドロピッチ(後のニコライ二世)の10歳のお誕生日に贈る為、1874年にスイスのシリンダーオルゴール製造会社の Baker & Co.に注文が出されています。オルゴールはツアールスコエ、エカテリーナ宮殿に運ばれました。アレキサンドル三世は190センチの大男で平凡な教育しか受けておらず、素朴であったけれども知的な皇帝ではなかったと言われています。しかし妻のマリアは知性にあふれた魅力的な女性でした。アレキサンドル三世は彼女をとて愛し、また家庭を大事にする夫でした。



ニコライ二世のオルゴール

ロマノフ王朝の秘宝として広く知られているイースターエッグは、1885年アレキサンドル三世が天才細工師ファベルジェに作らせて妻のマリアに贈ったのが始まりとされています。ニコライ二世のオルゴールはむしろ彼の父アレキサンドル三世によって愛玩されていたのではないかと思います。

ニコライ二世のオルゴールは1917年のロシア革命の後、外貨調達のために他の財宝とともにアメリカに売り払われて NY のオルゴール愛好家であった Mrs.Bornand のコレクションに加えられていました。



アレックスのオルゴール

ニコライ二世と愛妻アレックス皇妃

また、当館には Stella Imperial Orchestral と言われるニコライ二世に縁のあるロイヤルディスクオルゴールが所蔵されています。このオルゴールはニコライ二世が愛妻アレックスのためにパリの有名なデザイナーであった Gustave Germain に製作させたケースに、スイスの Mermod Freres 社のディスクオルゴールを納めたものとなっています。ケースの前面には皮に描かれた恋人の絵が張られています。

ニコライ二世は1894年10月20日のアレクサンドル三世の死により皇帝の座につき、11月26日には恋仲であったヘッセンの皇女アレクサンドラ(通称アレックス 英国ヴィクトリア女王の孫)と結婚しました。ニコライ二世の戴冠式は20ヶ月後の喪の明けた1896年5月に行なわれ、二人はこの夏に表敬訪問の旅にでました。ウィーン、コペンハーゲン、スコットランドと周り、最後にフランスに到着しました。

ニコライとアレックスを乗せた馬車がパリの大通りに現れると見物のフランス人の間から雷鳴のような大喝采が起きました。ニコライ二世はフランス人の大統領カルノーと父アレクサンドル三世が結んでいた友好の印として、1900年パリ万国博覧会にあわせてセーヌ川にアレクサンドル三世橋を寄贈しました。橋の設計は Cassien-Bernard と Gaston Cousin が引き受け、橋の装飾は1900年万博会場の装飾デザイナーであった Gustave Germain がまかされました。ニコライ二世はこの時 Gustave Germain にディスクオルゴールのケースの製作を依頼したものと考えられます。ニコライ二世は1900年4月14日の万博の開催日に行なわれたアレクサンドラ三世橋の落成式にはロシア国内の学生騒動の為出席できませんでした。アレクサンドル三世橋はセーヌ川にかかった最も美しい橋として今でも輝いています。(裏に続く)

ニコライⅡ世が妻のアレックスのために注文したディスクオルゴールは、パリの万博に出品された後に St.Petersburg に届けられました。ニコライとアレックスはツァールスコエ、セロのアレクサンドル宮をイギリス式カントリーハウス風に仕立て、皇后の部屋は藤色で統一し、彼女の思い出の品が飾られた心温まる部屋でした。その部屋に Gustave Germain の手によるロイヤルオルゴールもありました。ニコライⅡ世は職務の合間にこの部屋に来てアレックスとお茶を飲み、子供達と話をし、家族と一緒にオルゴールで音楽を愉しんでいました。ロイヤルオルゴールには125枚のディスクが残っており、それは歌曲、歌劇、民謡、フォークソングと多種多様にわたっています。

ロイヤルディスクオルゴールはロシア革命後フローレンスのイタリアの伯爵夫人の手に渡り、1927年に Gustave Germain のデスクを探していたアメリカ人によってアメリカに運ばれました。1950年にクリスティーズのオークションで当時の価格25,000ドルで落札されたことが知られています。

[参考文献] ロバート K マッシー(佐藤俊二訳) ニコライⅡ世とアレクサンドラ皇女 時事通信社 1997年
土井恒之 よみがえるロマノフ家 講談社 2005年

ニコライⅡ世のオルゴール演奏会

7月16日(木)～20日(月 祝) 午後3時より 約50分

「ニコライⅡ世」1878年 スイス ベイカートロール社
「ステラ インペリアル オーケストラ」1900年頃 スイス メルモフレール社
普段は展示だけのロマノフ王朝縁のオルゴール2台を演奏致します。
他にもニコライⅡ世と同じ頃に作られた同じメーカーのオルゴールも演奏します。
是非、お楽しみ下さいませ。

7月8月のプログラム 「オルゴールの構造」

普段はお見せしていない自動演奏楽器やからくり人形の機械部を特別にご覧頂けるプログラムです。また、オルゴールやオルガンの仕組みを模型を使ってわかりやすくご説明致します。オルゴールに使われているいろんなパーツも展示致します。

オルゴール博物館ニュース

講演会「山、城へ行く」を開催



2009年5月3日、藤川祐作氏(神戸深江生活文化史料館)をお招きし、徳川大坂城採石場の講演会を行いました。当日は、たくさんの質問がかわされました。

苦楽園小学校探検隊！！

6月11日、元気な探検隊がオルゴール館に来てくれました。初めて見る大きなオルゴールに驚きながらもしっかりメモを取っていました。ロビーにある大きなオルガンを廻してくれた隊員もいました。たくさん発見できたかな？